

2017 年 7 月 6 日

「症状がなくても、対象年齢になったら胃がん検診の受診を推奨」 「内視鏡検査に関する意識アンケート」結果 ～7 月 14 日は内視鏡の日～

オリンパス株式会社（社長：笹 宏行）は、「内視鏡検査に関する意識アンケート」の 2017 年調査結果を、当社が運営する健康応援ポータルサイト「おなかの健康ドットコム」で本日公開します。

当社は、内視鏡および内視鏡検査^{※1}の理解促進を目的とし、「内視鏡の日」^{※2}に合わせた意識調査を毎年行っています。2017 年に実施したアンケートでは、42,141 人の方から回答がありました。主なアンケート結果は以下の通りです。結果の詳細は、「おなかの健康ドットコム」でご覧いただけます。

●アンケート結果の概要

1. 上部消化管の内視鏡検査を受診したことのない人は、受診経験者に比べて胃がん検診を受けるタイミングを誤認している割合が多い
2. 上部消化管内視鏡検査の未受診理由で最も多い回答は「自覚症状がないから」
3. 市区町村や職場で実施する対策型^{※3}胃がん検診で胃内視鏡検査を選択した人は約 6 割。選択理由は「検査結果が信頼できると思ったから」

●アンケート結果の分析・講評：田坂記念クリニック 山口芳美先生（内視鏡指導医）

「症状がなくても対象年齢になったら受診を推奨」

胃がん検診は、対象年齢になったら受診することが推奨されています。^{※4}しかし、検診を受けるタイミングについて質問したところ、内視鏡検査の受診有無により正答率に大きな差があることが分かりました。

過去に内視鏡検査を受けたことがある人の中で「対象年齢になったら」と回答する割合は、全体で 83.3%、胃がん検診対象世代の 50 歳以上で 83.8%と 8 割を超える方々が正しく回答しています。一方、過去に内視鏡検査を受けたことがない人の中で「対象年齢になったら」と回答する割合は全体で 71.9%、胃がん検診対象世代の 50 歳以上では 61.0%と胃がん検診対象世代であるにも関わらず誤った認識でいる方が多いことが分かりました。

胃がんの早期の段階では一般的に自覚症状が現れません。胃がん検診は胃がんを早期に発見するための有効な手段です。症状がなくても対象年齢になったら必ず受けていただきたい検査です。



●アンケート結果に関する詳細データ

1. 胃がん検診の対象年齢である 50 歳以上の回答者の中で、「対象年齢になったら胃がん検診を受ける」と認識している人の割合は、上部消化管の内視鏡検査経験者で 83.8%であるのに対し、未経験者では 61%に留まりました。全体（20 歳以上）の回答を見ても、検査未経験者には、胃がん検診の正しいタイミングが認識されていないことが分かりました。

【Q.あなたは胃がん検診をどのタイミングで受けるべきだと思いますか。】

		「対象年齢になったら」	「症状が出たら」あるいは 「対象年齢になって症状が出たら」
上部消化管 内視鏡検査経験者	50 歳以上	83.8%	16.2%
	全体（20 歳以上）	83.3%	16.7%
上部消化管 内視鏡検査未経験者	50 歳以上	61.0%	39.0%
	全体（20 歳以上）	71.9%	28.1%

<本件に関するお問い合わせ先>

- 報道関係の方：オリンパス株式会社 広報・IR 部 堀本
TEL: 03-3340-2134(直通) FAX: 03-6901-9680
- 報道関係以外の方：健康応援ポータルサイト「おなかの健康ドットコム」
<http://www.onaka-kenko.com/>

2. 上部消化管内視鏡検査の未受診理由で最も多かった回答(10 の選択肢から 2 つまで選択可)は、「自覚症状がないから」、次いで「内視鏡をのむのがつらそうだから」でした。

上部消化管内視鏡検査 未受診理由(上位 3 回答)	全体(20 歳以上)	50 歳以上
自覚症状がないから	34.4%	38.3%
内視鏡をのむのがつらそうだから	16.7%	19.7%
受ける必要性を感じていないから	12.6%	12.9%

3. 全体の 64.6%の方が、対策型胃がん検診を受けるとしたら胃内視鏡検査を選択する、と回答しています。選択理由としては「検査結果が信頼できると思ったから」が最も多く、内視鏡検査に対する信頼度が高いことがうかがえます。

【Q. 対策型胃がん検診を受けるとしたら、胃部 X 線検査と胃内視鏡検査のどちらを選択しますか。】

	胃内視鏡検査	胃部 X 線検査
50 歳以上	72.7%	27.3%
全体(20 歳以上)	64.6%	35.4%

【Q.(上記設問で)胃内視鏡検査の選択理由】

	全体(20 歳以上)	50 歳以上
検査結果が信頼できると思ったから(1 位回答)	69.9%	73.4%
これまでに受けたことがあるから(2 位回答)	7.4%	10.9%

■アンケートの実施概要

対象: 全国 20 歳以上の男女
 方法: インターネット調査
 「おなかの健康ドットコム(<http://www.onaka-kenko.com/>)」上の特設ページで実施
 期間: 2017 年 2 月 9 日から 3 月 23 日まで
 回答者数: 42,141 名(男性:17,469 名、女性:24,762 名)
 設問数: 全 16 問



「7 月 14 日は内視鏡の日」

上部消化管内視鏡検査の様子(イメージ)

- ※1 内視鏡検査とは: 上部消化管内視鏡検査は、口や鼻から内視鏡を挿入し、食道、胃、十二指腸の検査を行うものです。大腸内視鏡検査は、肛門から内視鏡を挿入し、大腸の検査を行います。
- ※2 内視鏡の日とは: 内視鏡医学のさらなる発展と普及を願い、(財)内視鏡医学研究振興財団が 7 月 14 日を「内視鏡の日」と制定しました。7 と 14 で「内視(ないし)」と読む語呂合わせから日付が決定され、2006 年 7 月に日本記念日協会より認定を受けています。
- ※3 対策型検診とは: 国が公共的な予防対策として行う検診のことです。市区町村の実施する住民検診や職場で受診する職域検診があります。
- ※4 対策型胃がん検診について: 50 歳以上の方を対象として 2 年に 1 回胃内視鏡検査または胃部 X 線検査の受診が推奨されています。ただし、市区町村によって当分の間は、40 歳代以上の方には年 1 回胃部 X 線検査を行う場合もあります。詳しくは、お住まいの市区町村のがん検診担当窓口、または職場の健康管理窓口へお問い合わせください。

本リリースに掲載されている社名及び製品名は各社の商標または登録商標です。